

コミュニティバスの試行運行について

第8回品川区地域公共交通会議資料 (令和7年3月28日)

(目次)

1. しなバスの試行運行の状況
2. しなバスの今後の対応方針(案)について

1. しなバスの試行運行の状況

(1) しなバスの試行運行の経緯

- 令和3年2月に策定した「品川区コミュニティバス導入計画」に基づき、令和4年3月28日からしなバスの試行運行を開始。
- しなバスは令和7年度に運行4年目となることから、3年目の運行実績(令和6年度の収支率)で運行評価が必要。

4-2 事業評価の方法

- 品川区地域公共交通基本方針では、3つのコミュニティバスの目標像が掲げられ、目標像を実現するためには持続可能な事業である必要があるとしている。
- 本項では、これらを踏まえ、運行計画の見直しを行う際の事業評価の方法について定める。

(1) 評価指標の設定

- 事業評価を行うにあたり「持続可能な事業」の観点から、公益性や経済性のバランス等に配慮した事業評価を行うため、他自治体でも多く採用されている、年間の運行経費に対する収入の割合を示す「収支率」を評価指標として設定する。

(2) 評価基準の設定

- (1)で設定した評価指標について、運行の継続などを判断する評価基準を定める。
- 通常、収支率が100%を下回ると単独事業としては成り立たないため、コミュニティバスを存続させるためには、運賃収入等で賄いきれない部分を区が補うこととなる。他自治体では、運行継続基準として40%~50%で設定している事例が多い。
- 品川区では、第2章で試算した運行収支(P.35 参照)や他自治体を参考にしつつ試算誤差を考慮し、「収支率」の評価基準を「50%以上」に設定する。

■評価指標
収支率
■評価基準
50%以上
年間の運行経費に対する収入の割合が50%以上となる

(3) 事業の見直しについて

- 設定した評価指標・評価基準を用いた事業の見直しの流れを次ページに示す。
- 1~3年目は、評価指標による評価を行い、基準を満たしていない場合は改善に向けた検討を、基準を満たしている場合は維持・向上に向けた検討をそれぞれ実施し、接遇や安全性の向上などの取組みとともに、ダイヤ改正やバス停位置の改良などを含めた改善運行を実施していく。
- 試行運行期間の最終年である4年目において、3年目の運行実績が基準を満たす場合のみに「本格導入(本格運行へ移行)」とし、基準を満たさない場合は「見直し(廃止含む)」とする判断を行う。
- 本格導入以降、基準を満たす場合は「運行継続」とし、基準を満たさない場合は本格導入前と同じように改善の検討・取組みを実施していく。なお、3年連続で基準を満たさない場合は、「見直し(廃止含む)」の判断を行う。

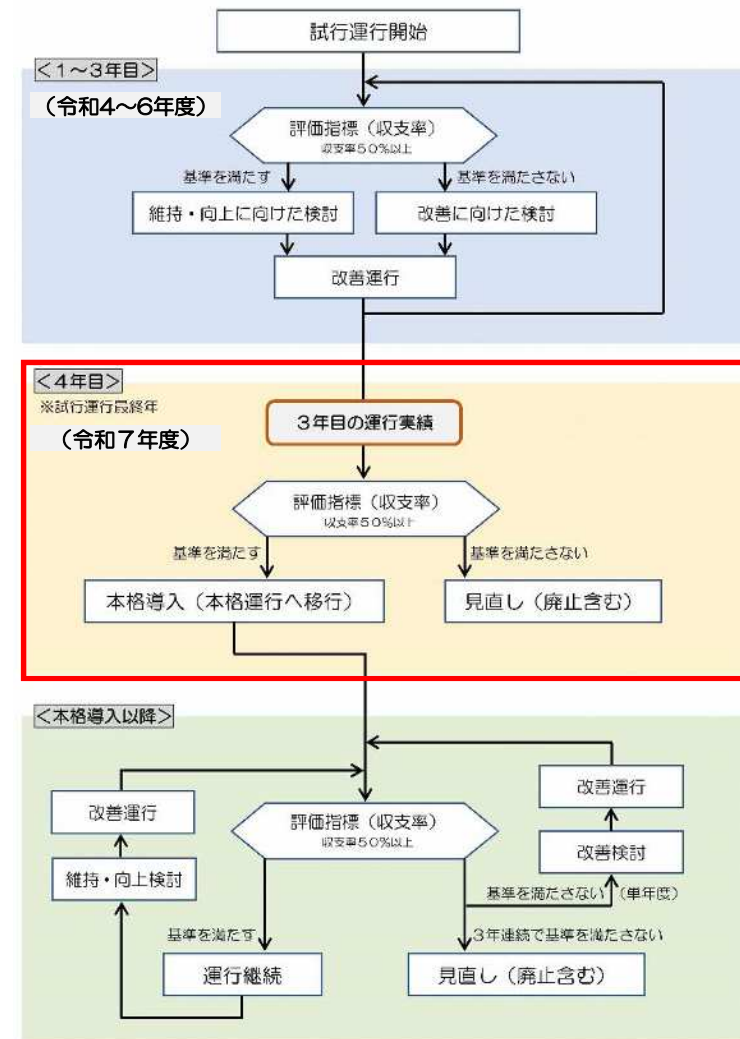


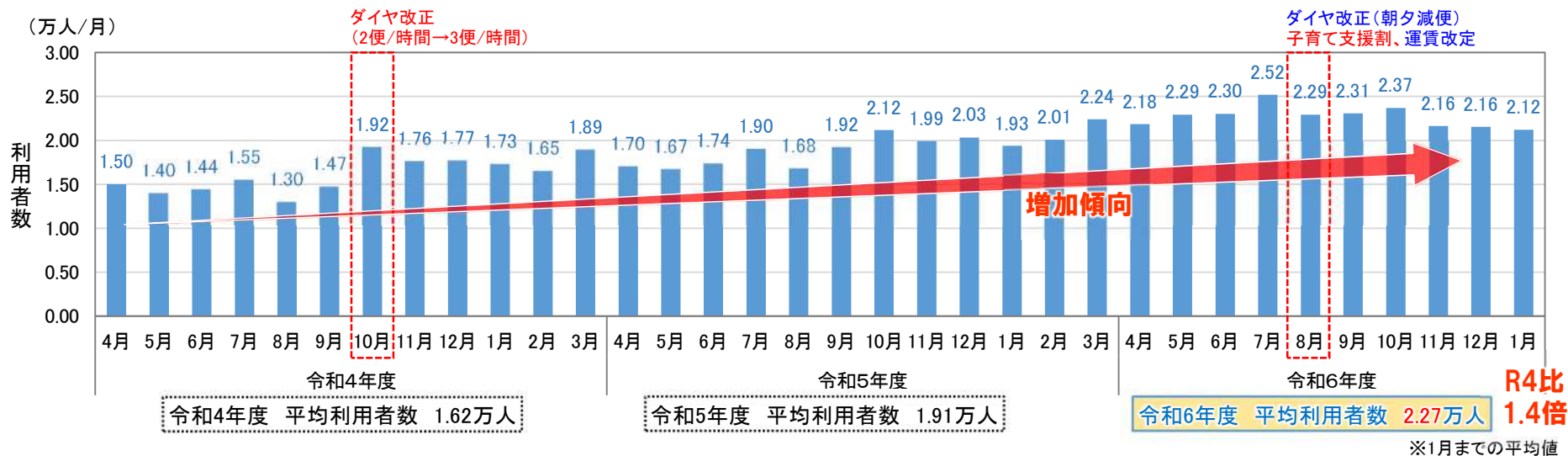
図 34 事業評価フロー

1. しなバスの試行運行の状況

(2) しなバスの利用状況

○しなバスは、令和4年10月のダイヤ改正や令和6年8月の子育て支援割導入など、利用者の増加に向けた施策を実施。

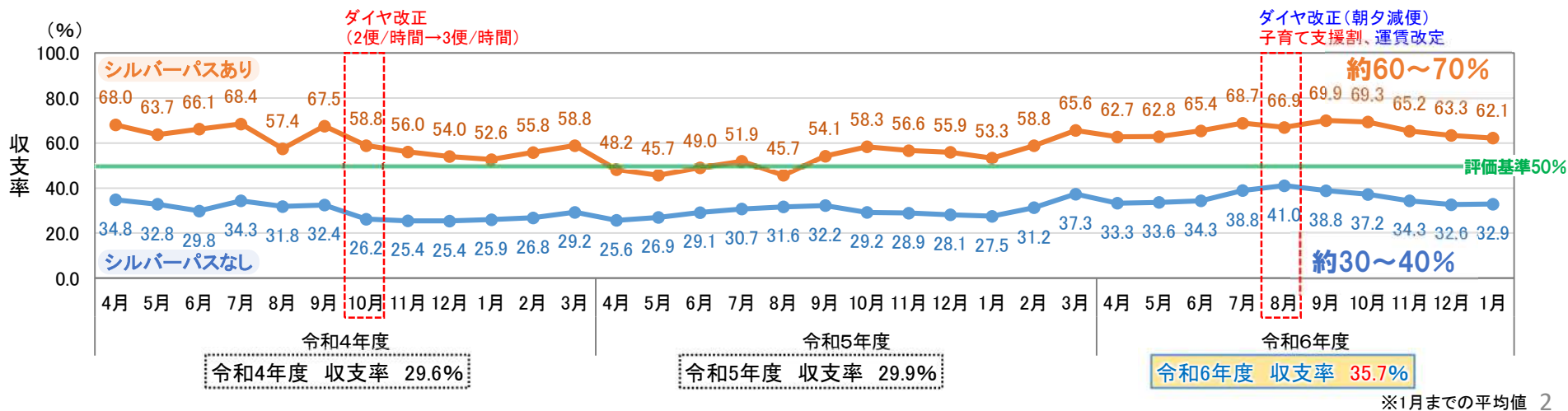
○利用者数は増加傾向にあり、運行開始時の約1.4倍に増加。



(3) しなバスの収支率

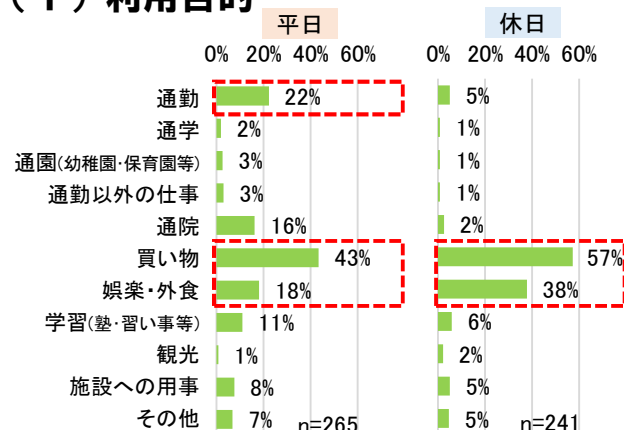
○シルバーバスを運賃換算した「シルバーバスあり」の収支率は、令和6年度60%を超え、評価基準の収支率50%を上回っている。

○シルバーバスを運賃換算しない「シルバーバスなし」の収支率は、令和6年度でも30~40%程度であり、評価基準を下回っている。



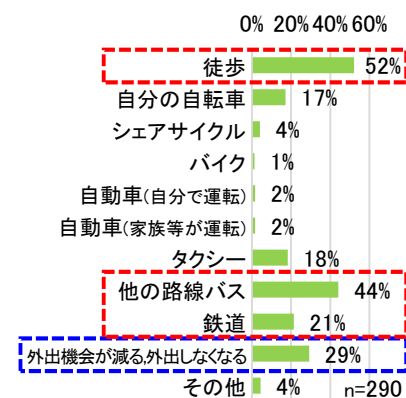
2. 令和6年度利用者アンケート(抜粋)

(1) 利用目的



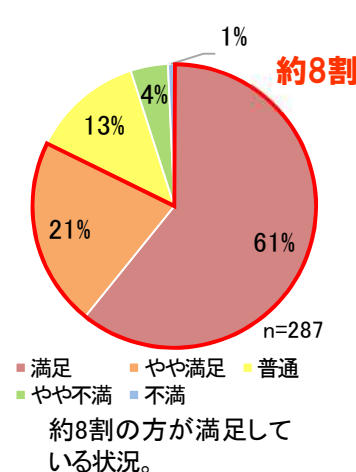
主に買い物・娯楽等の足となっている。
平日は通勤利用も存在。

・しなバスが無くなった場合の移動手段

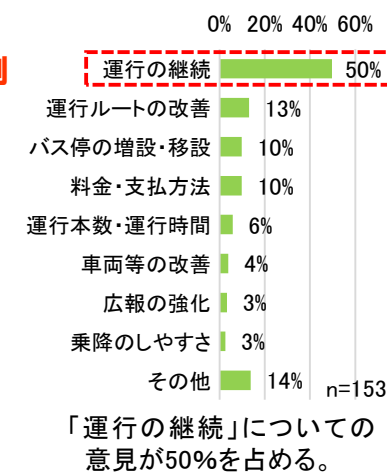


他の代替手段があると答えた人も多いが、
外出機会が減ると答えた方も29%存在。

・総合的な満足度



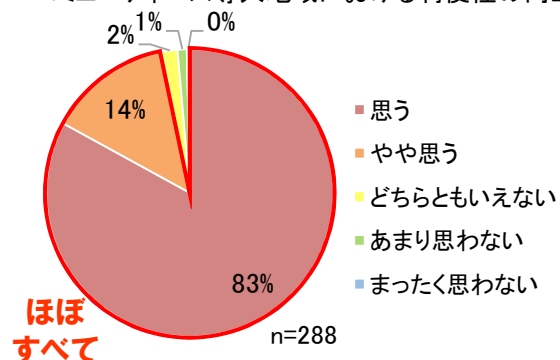
・自由意見の傾向



(2) 運行による効果(コミュニティバスの目標像の実現)

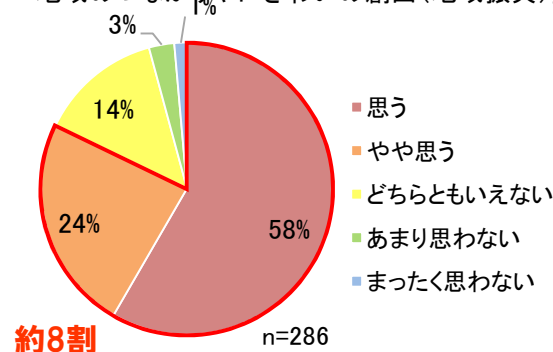
目標像1

「コミュニティバス導入地域における利便性の向上」



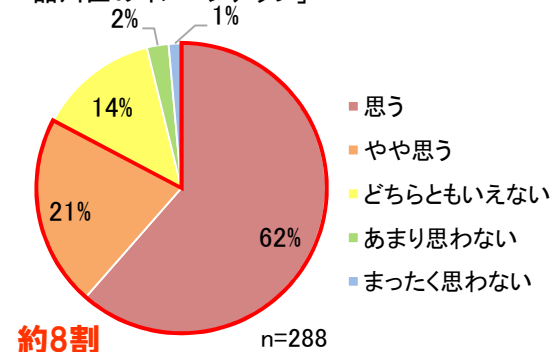
目標像2

「地域のつながりやにぎわいの創出(地域振興)」



目標像3

「品川区のイメージアップ」



3. しなバスの今後の検討について

〇4年目(令和7年度)の運行判断にあたっては、年間の運行経費に対する収入の割合が3年目(令和6年度)に50%以上とまらない場合は「品川区コミュニティバス導入計画」に基づき「見直し(廃止含む)」を方針としている。

〇見直しにあたっては、以下の理由から、試行運行の継続を含め、総合的に判断する。⇒次回の地域公共交通会議で検討結果を提示

- ・利用者数が増加傾向にあり、収支率を含む運行状況について今後改善が見込まれること
- ・新たな交通サービスの状況等を踏まえて、地域に適した交通を見極める必要があること